

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

第一志望が 奈良女子大学だったので、関西の一番の私立女子大学と聞いて同志社女子大学を受験しました。また、その立地や同志社大学の講義も受けられるという点がとても魅力的だと感じ、これが理由の一つです。また、世界史が苦手だったので2教科が受けられるという点を決めました。

- (2) 一般入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

一般入試対策はしていませんでした。当時目指していた国立大学の2次試験対策をしていました。教科は国語と英語だったので、結果一般入試対策になっていと思います。国語は助動詞や句法などの基本的なものを完成させていたのですが、全く記述の問題が解けず、自分の不出来を痛感していた時期でもありました。英語もボキャブラーがなかったので絶望していました。

〔夏休み〕

学校の行事や部活動が忙しくて勉強に身が入っていませんでした。実のところ、一応塾でセンター試験の対策をしていました。しかし国語は7割、英語は6割くらいしかとれていませんでした。とりあえず学校の行事も部活動も全かてやりきり、やる気はなかなかあがりませんでした。点も伸び悩んでいて国語・英語を置き去りにして理系科目や社会をにこさんしていました。今思えばこの時期に単語や文法を固めておけば、後の勉強をもっと楽しくできたのではないかと後悔しています。

〔2学期～入試直前〕

学校でセンター対策が始まったので11月頃からです。学校では2次対策→塾でセンター対策→家で明日の学校の予習という日々を過ごしていました。センター対策は曜日ごとに教科を分けて1週間7科目900点満点で予想問題を解いてました。週末に解き直し定着させた方がいいので模試が入ることは9割結構はあきらめにしていました。11月以降は完全にセンター対策に入り、一般入試対策を始めるのはセンターが終わってからでした。取り寄せた資料に付いていた去年の問題を眺めて傾向をつかんで(1年分しかないのでつかんのがつらいかもしれませんが)その後は国語は学校で貰った漢字・古文の基本的な文法や単語をまとめてプリント、英語は私大対策用の単語を覚えめました。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

私の学校は推薦入試を受ける人、私大一本で決めている人が少なく、ほとんどの人が国公立大学を受験したので、受験が早く終わってから遊ぶという人はあらず。雰囲気も崩れては来ませんでした。みんな受験への意識も高く互いに切磋琢磨していたのでテレビやスマートフォンでの問題はあまりはかたと思いません。学校行事も部活動も最後までしっかりやりきっていました。ただスランプに陥ったり、精神的に辛そうな人は多かったです。私もセンターの問題を解く前はタイマーを90分に設定しては良いものの、なかなかスタートボタンを押せずに問題用紙の表紙と1時間くらい悩むことがよくありました。そんな時は気の置けない友達や仲の良い先生に素直に「勉強が辛い」と相談すると良いと思います。同様の人の何気ない言葉は時に私をどん底から救い上げてくれました。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

受験を楽しいと思うか辛いと思うかはおのずから次第だと思えます。私は家塾、学校が遠く、毎日一泊に勉強できる友達はいませんでした。早いうちに「放課後、図書館で勉強しよう」と友達を誘って、それをいつの間にか習慣にできるととても良いと思います。また、これは今から言えることですが、学歴が将来どうしても必要なのは別ですが、結局どの大学に行っても学びを追究できれば変わらないと思います。おのずかの合格できる大学で、おのずかのできることを精一杯できれば、これ以上のことはないと思います。